

国際大会参加報告書

2008年 10月 14日

社団法人 日本ボディビル連盟
会長 玉 利 齊 様

報告者 廣田 ゆみ



大会名	女子世界ボディビル&ミスフィットネス・ボディフィットネス選手権大会				
開催期間	2008年 10月 3日 ~ 2008年 10月 5日				
開催場所	国名:スペイン		都市名:サンタスサナ		
参加国数	43 カ国		参加選手数	176 名	
役員	役員名	役職・他			
	監督 コーチ	廣田 ゆみ	日本ボディビル連盟・選手強化委員		
選手	選手名	所属連盟	カテゴリー	順位	備考
	三國 智子	静岡県	フィットネス+163cm	8位	20名出場 TOP10に残る
	望月 朋子	静岡県	ボディフィットネス-158cm	11位	18名出場 一次予選15名に残る
レポート	<p>今回、初めて監督として女子世界選手権大会に参加させていただきました。私は選手としての経験は豊富ですが、フィットネス競技をあまり見ていないので、監督として務まるかどうかは正直不安でした。出発前に監督として経験豊富な大垣純子さんに過去の資料を送っていただき、IFBBの大会要項にも目を通して自分なりに準備をしていきましたが、やはり国際大会は現地に入ってから予定が変わることが多く、常に確認を取るのが大変でした。幸い選手も私も行ったことのある場所での開催でしたので、その点では現地の様子が分かっているように思っています。出場者数は、ボディビル-55kgが18名、+55kgが18名、フィットネス-163cmが20名、+163cm14名、ボディフィットネス-158cmが18名、-163cm32名、-168cm25名、+168cm20名で、三國選手、望月選手ともに人数の少ないクラスだったので、審査員にしっかり見てもらえたのはラッキーでした。特にボディフィットネスの-163cmクラスは30名以上もいて、相当なインパクトがないと一次予選15名に残るのも大変です。2選手のコンディションは今年の国内大会時よりシェイプアップし、過去最高の仕上がりと感じました。舞台上上がった時点で、望月選手は15名に残れると確信出来ましたし、三國選手も最初のビキニラウンドでファーストコールされ、プロポーションはトップクラスに見えました。しかし、ルーティンではヨーロッパ、ロシア勢がメリハリのある力強い演技を見せる中、三國選手の演技はアピール性という点では他の選手より流れが単調で印象薄く感じました。結果TOP10には入れましたが、TOP6には残れませんでした。今後の課題として、振り付けを見直し、演技にメリハリを作る工夫がほしいのと、欲を言えば、さらに豊かな顔の表情を身につけて欲しいと思いました。望月選手はTOP15の比較では上位との差を感じましたが、身体のラインは決して引けをとっていません。「私が一番」という強気を態度に出すぐらいのよい意味での凶々しさと、さらに身体に磨きをかけることで上位に進める可能性があると感じました。今回で三國選手は3回目、望月選手は2回目の世界選手権大会出場でしたので、落ち着いて出場できたようです。私も監督として選手に余分な負担をかけずにリラックスして舞台上立ってもらえたことを嬉しく思います。そして、今回特に感謝したいのは、自費でサポーターとして働いてくれた菊池選手です。彼女が舞台裏で選手の準備をしっかり手伝ってくれたことが今回の成績に結びついたと思います。菊池選手自身も、選手として出場する以上の勉強が出来たと思いますし、今後国際大会に出場したとき、今回の経験が必ず生きてくると思います。私はこれまでずっと選手としてお世話になってきたので、初めて監督を務めてみて、今までお世話になった監督、コーチに改めて感謝の気持ちを強く持ちました。私自身もとても勉強になりました。ありがとうございました。</p>				

※ 本報告書は帰国後1ヵ月以内に大会結果表を添付して日本連盟事務局に提出して下さい。

※ レポート欄が足りない場合は別紙に記入して添付して下さい。